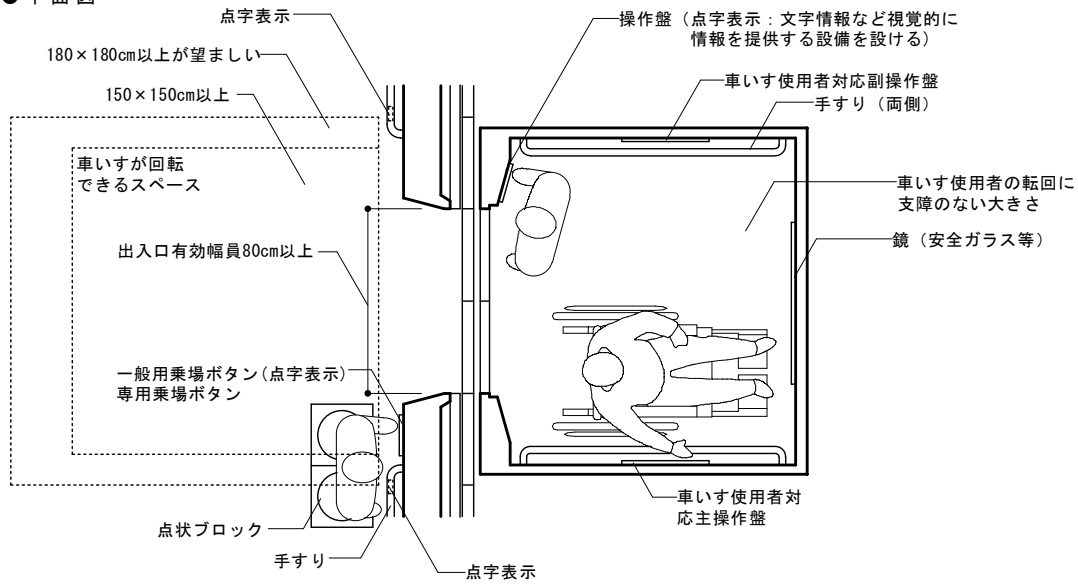


2. 6 エレベーター・エスカレーター

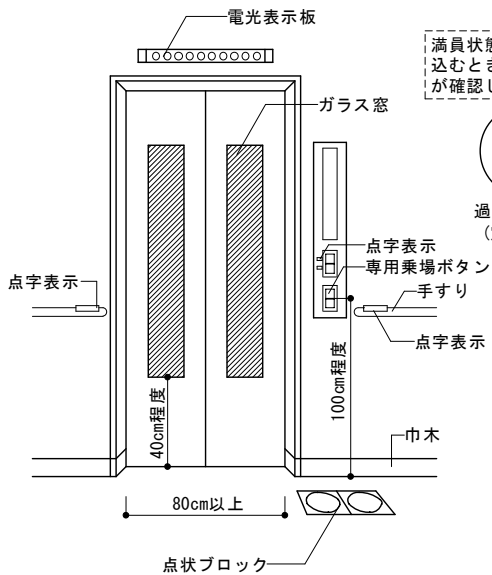
◆設計の考え方◆

- ・エレベーターは、高齢者・障害者等が安全かつ円滑に垂直移動を行うための有効な手段である。エレベーターを設ける場合は、誰もが利用しやすいように、建築物の中でなるべく分かりやすい位置に設け、案内表示を適切に設置することが求められる。
- ・使用時の利便性等を考慮すると、エスカレーターのみによる対応は好ましくなく、原則として障害者等のためにはエレベーターで対応することが求められる。
- ・エスカレーター構造・設備は、高齢者・障害者等の利用に配慮したものとする。
- ・エレベーターの設置位置がわかるよう建物全体の案内図に示す。その際、視覚障害者等視覚情報が伝わりにくい人にも情報が伝えられる表示方法とする。

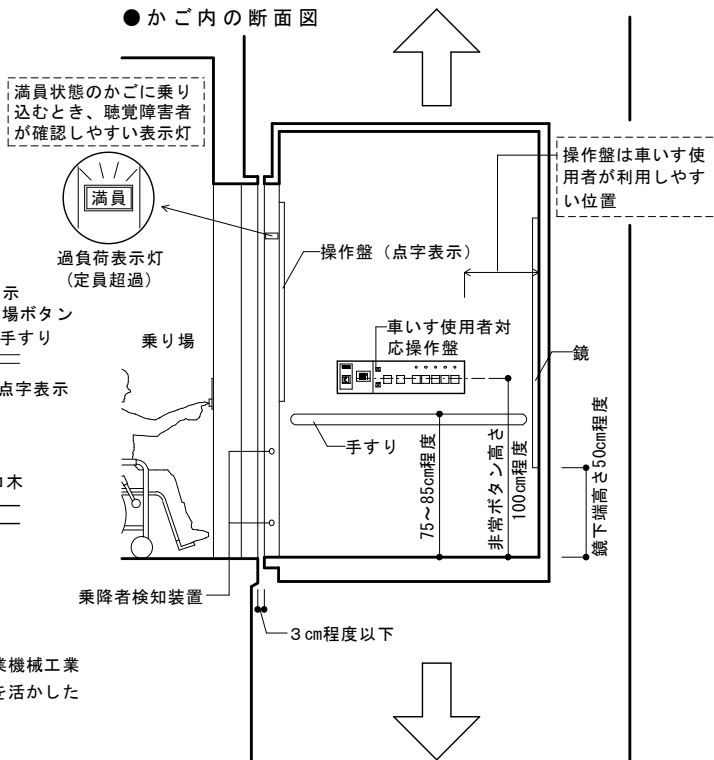
●平面図



●エレベーター出入口(乗り場)



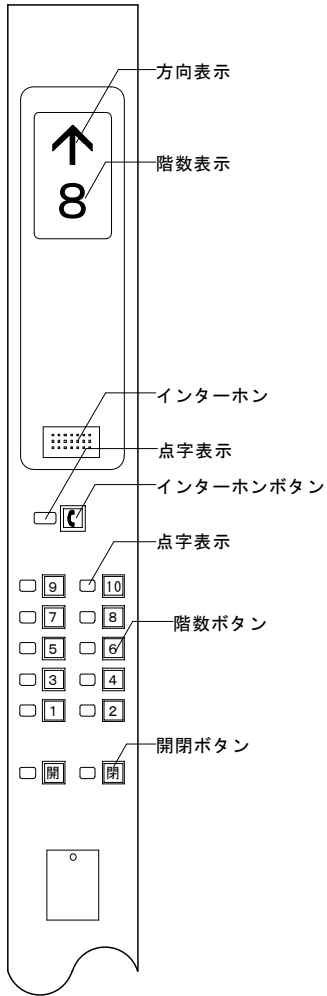
●かご内の断面図



※過負荷表示灯については、社団法人日本産業機械工業会技術委員会による「ユニバーサルデザインを活かしたエレベーターの研究報告」を参考とした。

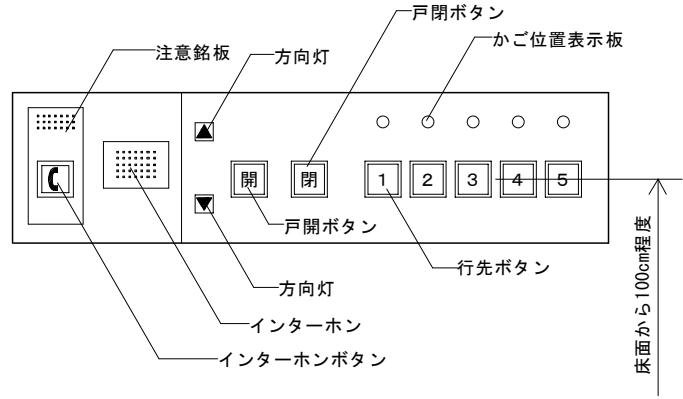
● エレベーター 操作盤仕様 (例)

● 縦型操作盤

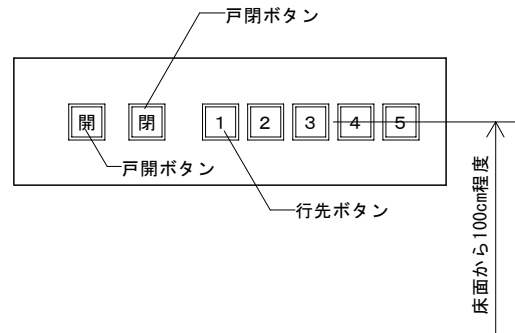


● 車いす使用者対応主操作盤

(背面パネルにかご位置表示灯、方向灯を設けない場合)



● 車いす使用者対応副操作盤



● 階数ボタン

- ・ 階数ボタンは浮彫階数表示が望ましい
- ・ 階数ボタンが2列になる場合は千鳥配列が望ましい

